

## 佳作 温暖化から

千葉県 長狭高等学校二年 加藤 貴史

近年では、世界的に地球温暖化について問題になっていきます。毎日のニュースでも度々放送されていて、この問題が重要視されてきています。その影響で近隣の人や学校の友達も気にかけている人が増えてきました。

このような状況ですが、私はこの地球温暖化という問題をあまり気にしていませんでした。日常生活の中で、電気やお風呂のガスを付けたままの状態が多々あり、この行為が間接的に地球温暖化の原因となっていることさえ、深くは考えませんでした。

地球温暖化にはたくさん問題点があります。その中の一つは「森林伐採」です。森林を伐採すると木が無くなり、これにより砂漠化が始まり、生物が住めない環境になっていきます。砂漠化とは雨が降ることなく、高温による乾燥のため草木が全く育たず、一面が砂の景色である地域のことをいいます。有名な砂漠にはアフリカのサハラ砂漠、中国のタクラマカン砂漠、北アメリカのソノラ砂漠、オーストラリアのグレートサンディ砂漠などが挙げられます。現在これらの砂漠を中心に世界中の各地域で砂漠化が進んでおり、砂漠化の原因を調査し、対策が練られています。大きな成果はまだ得られていません。現在でも除々に進んでいる砂漠化は私たちも知らぬ顔で過ごすことができないほど深刻化しています。このまま砂漠化が続くと、酸素を生み出してくれる「緑」そのものが無くなってしまいます。これにより空気はどんどん汚れていくでしょう。

私たちが人間は酸素を吸収し、二酸化炭素を吐き出します。その排出された二酸化炭素許容濃度は低く、0.5パーセントといわれています。

たった0.5パーセント上昇するだけで、人間は意識不明となり、二十五パーセント以上の濃度になると数時間内に人は生きていけなくなってしまう。さらに二酸化炭素が三〇パーセント以上になることで、その場に生息することすらできません。なにげない生活の中で、二酸化炭素が危険であるということを知らずに生活している人がほとんどです。二酸化炭素は、地球温暖化の原因とされる温室効果ガスのひとつです。これ以上被害を増やさないためにも、地球温暖化を防ぐ装置が必要になってきます。私たち自身ができることとして、二酸化炭素を減少させ、温室効果ガスを出さないようにすることですが、私たちが住んでいる日本では世界でも四番目に二酸化炭素を排出している国のひとつです。二酸化炭素の排出により、また他の問題がでてきます。

オゾン層が破壊されると、太陽に含まれる紫外線をカットできず、有害な紫外線に直接あたってしまうと皮膚ガンや白内障、失明、免疫低下によるエイズなどのウィルス性の病気にかかりやすくなるのがわかっています。さらには、生物細胞の遺伝子にも影響があるのです。今は、世界中で皮膚ガンや白内障にかかる人が増加し、日本でも七倍も増えています。二十年後には、オゾン層は三分の二が減少し、最悪の事態になると言われています。オゾン層の破壊は、地球温暖化においても、大きな環境問題のひとつだということなのです。

私は以前、「二億年後の地球」という本を読んだことがあります。私が地球温暖化という問題に興味を持ちはじめたのは、この本がきっかけでした。この本の内容は、タイトルにあるよう

に二億年後の地球について書かれています。二億年の時を経て人間は絶滅し、ほとんどの陸地は沈み、そして進化したイカは地に足をつくように、そのほかの生物は環境に応じて進化します。もちろん、地球温暖化に対してなんの対策もとらなかつた場合で書かれています。私は初めてこの本を読んだとき、二億年後には新しい生物がたくさんいるのだと、ただ目の前のイラストに釘付けになっていました。しかし、何度も読んでいる内に筆者が伝えたいことは新しい生物が誕生することや、地球が変化していくことなどではありません。地球がどれだけ人間の手によって傷めつけられて、危険な状態にあるのかを読者に伝えたいのだと思います。この意味がわかった時、私はとても感動しました。なぜなら、この本を読んでいなかったらここまで深く地球温暖化について考えることは無かつたと思うからです。

最近では、家の中で少しでもCO<sub>2</sub>を削減しようと努め、また外出した際、最低限自分のゴミは自分で処分するように心がけています。学校へ登下校する際、道端に捨てられているゴミをよく目にします。ゴミをゴミ箱に捨てることは当たり前のように思われますが、実際出来ないのが現状です。

私一人がこの問題について考えたところでどうにかなるような、簡単なことではありませんが、誰か一人が始めなければ周りも動かないと思います。これから地球・地球上の生物の鍵は、私達一人一人が握っているのです。